# 米国　Ad-Tech Medical Instrument Corporationを子会社化

日本光電は、中期経営計画「BEACON 2030 Phase II」において、製品競争力の強化や消耗品・サービス事業の拡大に注力しています。特に、北米市場を重点地域と位置付け、経営資源を優先的に投入することで、グローバルな事業成長を加速させています。

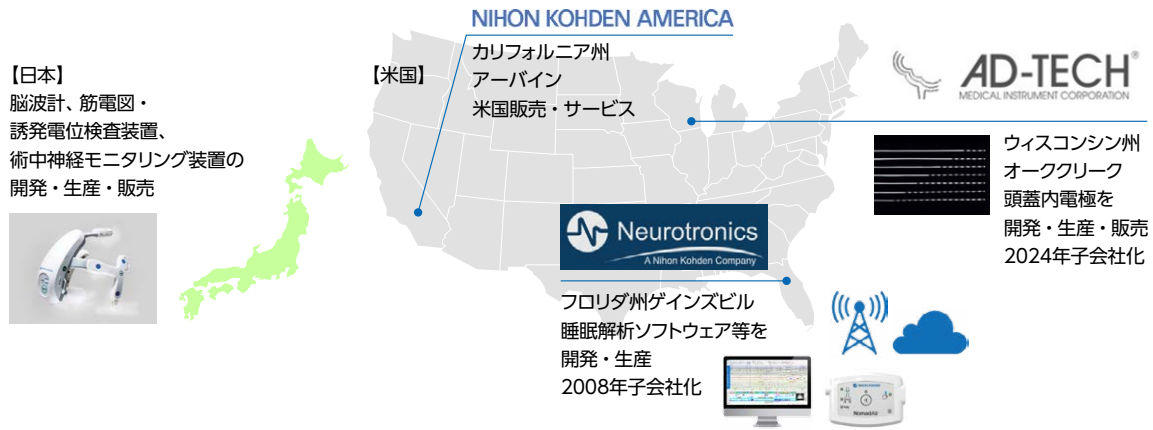
2024年11月、日本光電は米国アドテック（株）の親会社であるニューロアドバンスド（株）の株式71.4%を取得し、子会社化しました。

アドテック（株）は、1983年の創業以来、難治性てんかんの外科治療に用いられる深部電極や硬膜下電極など頭蓋内電極を開発・生産・販売し、世界60ヵ国以上の脳神経外科医から高い評価を獲得してきました。また、日本光電はアドテック製品を、日本の医療機関に対して30年以上にわたり提供してきました。当社の脳神経機器とアドテック（株）の頭蓋内電極には高い親和性があり、侵襲的な検査・治療に使われる消耗品の技術・生産ノウハウの獲得により、当社のコア技術であるHMI※1技術のさらなる強化を図ります。また、消耗品ポートフォリオの拡充により、売上成長や安定収益の確保につながると期待しています。

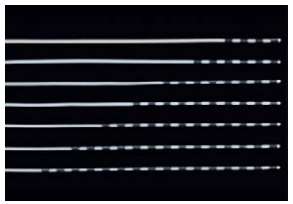
グローバルにおけるてんかん患者数は5,000万人と推計されており、このうち薬物抵抗性のある患者さんは1,500万人、外科的治療が必要な患者さんは500万人（全体の10%）と言われています。

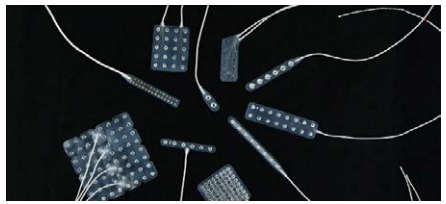
米国では、てんかん診断・治療に関する最先端の研究が行われていることから、日本光電とアドテック（株）、医療機関や研究機関との連携を強化するため、2025年4月に脳神経事業統括部を新設しました。日本の開発部門、米国のアドテック（株）、ニューロトロニクス LLCなど、脳神経系部門を統括し、脳神経領域における検査から診断・治療・予後に至るまで、患者さん一人ひとりに最適なケアサイクルソリューションの提供を目指します。

**日米における脳神経機器の開発・生産・販売体制**

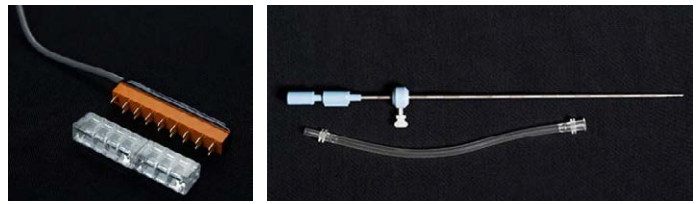



## アドテック社　製品ラインアップ


深部電極


硬膜下電極


IONM※2電極


留置用アクセサリ、コネクタ、生検診

※1 HMI（Human Machine Interface）：ヒューマン・マシン・インターフェース。人間と機械との接点。当社の場合、センサ技術、信号処理技術、データ解析技術の総称。

※2 IONM（Intraoperative Neurophysiological Monitoring）：術中神経モニタリング。